



Q どうして今まで3期制だった5教科（国・社・数・理・英）の評定を2期制に変更したのですか？

A 大きな理由が二つあります。

一つ目は、令和3年度から中学校の「学習指導要領」が改訂され、時代の変化と共に「求められる生徒の姿（育成すべき資質・能力）」が更新されたからです。それまでの学校教育が、知識や技能を習得することに偏りがちであった反省から、生徒が習得した知識や技能を日常の授業を通して、活用の段階まで質を高めていくことが求められるようになったとともに、生徒自らが学習の見通しを立て、振り返り、学習の仕方を調整しながら、主体的に学習に取り組む力を育成することが大切になってきました。そのために、より長い期間の中で、生徒の学びの様子を評価していく必要があると考えられるようになったからです。

二つ目の理由は、生徒も教師も、これまで以上に見通しとゆとりをもった学校生活を送ることができるようにするためです。中学校生活はとても忙しいと感じる生徒が多く、特に1学期は、4月に入学・進級してから新しい環境での学校生活がスタートし、約3カ月という短い期間に様々な取組や行事が押し寄せてきます。このような息つく暇もない状態の中で、これまでは、それらの隙間を縫うようにして1学期に定期テストを実施し、評定を算出していました。そこで、夏休みを挟んだ9月に定期テストを実施し10月に評定を出すようにすることで、1学期は旅行的行事や部活動にこれまで以上に集中できるようになり、前期定期テストの勉強は、夏休みの期間を利用して、より長期的にじっくり進めることができるようになります。教師にとっても、バタバタとした短い期間で評定を出すのではなく、夏休みも含めて長い期間の取組を評価する方が、適切な生徒の評価をすることができると考えられます。

Q 懇談の回数や時期、内容は変わりますか？

A 昨年度までと変わらず、1学期末（7月）と2学期末（12月）の2回、期末懇談（生徒・保護者・担任の三者懇談）を実施する予定です。

これまで期末懇談では、その学期の学習成績（仮の評定）をお伝えしていましたが、今後はそれをお伝えしなくなります。（1学期末、2学期末時点での評定を出さなくなるため。）

1学期の期末懇談では、新しいクラスでの学校生活の様子や授業への取組の様子、現時点での希望進路についての確認等が話題の中心となります。また、4月22日に全学年で実施された「標準学力調査（学校の学習成績には関わりなく、生徒の5教科の学力を測るために実施）」の結果についてもお知らせします。

3年生については、2年学年末までの学習成績（評定）を基に学習点（ランク）を算出したものをお伝えし、今後の進路選択の判断材料としていただくこととなります。

2学期末懇談（12月）では、2学期の学校生活や授業の様子についてのお話に加え、前期の評定（10月に算出されたもの）を基に学習点（ランク）を算出し、進路選択の判断材料として提示する予定です。3年生は、11月下旬から事前の進路相談（生徒と担任）を経て、12月の期末懇談で、保護者の方とともに出願先を確認し、決定することとなります。

Q 3年生は、これまで2学期末（12月）の成績（評定）で志望校（受検する高校）を決めていましたが、10月に出る前期末の成績で志望校を決めなければならなくなるのですか？

A これまで同様、志望校を決めるのは2学期末懇談（12月）でとなりますが、その際の判断材料は、10月に出る前期末の成績（評定）による学習点数（ランク）となります。ただし、最終的に受検先の高校へ提出するものは、これまで同様学年末の学習点（ランク）なので、判断材料はこれまでより2カ月早く出ることとなりますが、生徒にとって受検に不利益になることはありません。

Q 定期テストが3回から2回に減ったら、子どもたちは勉強の意欲が減って、これまでより勉強しなくなるのでは？

A まずは、「定期テストがあるから勉強しなきゃ（勉強しなさい）」という考え方を根本から変えなければなりません。

繰り返しになりますが、令和3年度に時代の変化とともに大きく更新された「学習指導要領」で求められている、生徒に育成すべき資質・能力は、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養とされています。

そのために、これまでの教師が生徒に知識や技能を教え込み、その知識量や技能をテストで測ることに偏重しがちになっていた教育を改め、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」が求められています。そして、定期テストのような1回の大きなテストが学習成績に大きく響くような評価の仕方はなじまないと考えられるようになってきました。（定期テストを廃止している学校や今後廃止していくという学校も増えてきています。）

本校では、5教科で定期テストを評価の一部として実施していますが、それ以上に日常の授業中において、定期テスト以外に様々な評価をしています。（授業へ取組状況の観察、振り返りシートやレポート等提出部の記述内容、パフォーマンス

テスト・実技テスト、単元テスト、スピーチ、プレゼンテーション…)

学校側から生徒たちにも伝えているところですが、「定期テスト前だけ勉強する」、「定期テストでいい点数を取ることが重要」という考え自体を改め、定期テストの回数が減った分、日頃から授業でおこなわれる様々な取組やテストにしっかり取り組むこと、テスト前だけではなく日頃から長期的・継続的に家庭学習に取り組むことがより大切になってくるということを家庭でもご指導お願いします。